

夏休みおすすめ図書 ～小学校5・6年生向け～

いのちつぐ「みとりびと」シリーズ

「1 恋ちゃんはじめの看取り」

「2 月になったナミばあちゃん」

「3 いのちのバトンを受け取って」

國森 康弘//写真・文 農山漁村文化協会 490ク

3冊とも、大切な家族の死に向き合って、看取る人たちの姿を実際の写真で伝える本です。

「発電所のねむるまち」

マイケル・モーパーゴ//作 ピーター・ベイリー//絵 あかね書房 933モ

イギリスのブラットウェルに住むマイケルは、友達に突き飛ばされケガをし、そのときケガの手当てをしてくれたペティグルーさんと仲良しになります。彼女は亡くなった夫アーサーの思い出とともに湿地に鉄道客車を置き、ロバや犬たちと一緒に生活しています。その湿地に、原子力発電所の建設計画が持ちあがります。

これまで仲良く生活していた村は建設をめぐってバラバラにされ、マイケルたちも村を出ていきます。それから50年後、大人になったマイケルが村に戻り、自分の目で村と発電所の姿を確かめます。

「林業少年」

掘米 薫//作 スカイエマ//絵 新日本出版社 913ホ

代々続く山持ちの大沢家の長男・喜樹は、祖父・庄蔵の期待を一身に受けていた。家族から「干物」と陰口を叩かれる庄蔵だが、木材取引の現場では「勝負師」に変身する。百年杉の伐採を見届け、その重量感に圧倒された喜樹は…。

「ふたつの名前で愛された犬」

平野 敦子//作 こば ようこ//絵 学研パブリッシング 645ヒ

17年間飼い主を待ち続けた犬がいた。45年間はぐれた犬を思い続けた人がいた…。茨城県の小さな町で実際にあった、伝説の忠犬をめぐる人と犬とのきずなの物語。

「狐笛（こてき）のかなた」

上橋 菜穂子//作 白井 弓子//画 理論社 913ウ

ひとの思いが聞こえる「聞き耳」の才を持つ少女・小夜が幼い日に助けた子狐は、恐ろしい呪者に命を握られ「使い魔」にされた霊狐だった。森陰屋敷に閉じ込められた少年・小春丸、そして小夜と霊狐・野火。彼らの運命は？

「弁当づくりで身につく力」

竹下 和男//著 講談社 374タ

2001年に香川県の小学校で始まった「弁当の日」。弁当づくりをとおして社会や自分の生活を見つめ直す子どもたちの姿を伝える。

「ぼくの図書館カード」

ウィリアム・ミラー//作 グレゴリー・クリスティ//絵 斎藤 規//訳
新日本出版社 Eク

黒人差別が続いており、図書館があっても黒人の利用が禁止されていた1920年代のアメリカ。そこに住む黒人の少年は、「自由」を求めて仕事を続けます。ある日、職場で働く白人の仲間から図書館カードを借りて本を借りに行くと、そこには・・・。

「バアちゃんと、とびっきりの三日間」

三輪 裕子//作 山本 祐司//絵 あかね書房 913ミ

夏休みをのんびり過ごしていた小学5年生の祥太のところで、バアちゃんを3日間だけ預かることになります。祖母との生活の中で祥太は少しずつ成長していきます。

「パンプキン！ 模擬原爆の夏」

令丈 ヒロ子//作 宮尾 和孝//絵 講談社 913レ

身近にあっても見すごしていた戦争の大きな傷あとを、夏休みの自由研究で調べてみるど…。1945年、終戦の年に、原爆投下の練習のため模擬原爆・通称パンプキン爆弾が日本各地に落とされていた事実が・・・。

「のっぽのサラ」

パトリシア・マクラクラン//作 金原 瑞人//訳 中村 悦子//絵 福武書店 933マ

緑の草原をぬけて、遠い海のある土地から私たちのうちにサラがやってきました。サラはパパの新しいおくさんです。サラはいろんなことを教えてくれました。でも、ある日サラは町に行ってしまいました。わたしと弟はとっても心配になりました。もう帰ってこないんじゃないかしら…。

「新ちゃんがないた！」

佐藤 州男//作 長谷川 集平//絵 文研出版 913サ

新ちゃんは足が悪い。でもおれの一番の親友だ。足が悪いから、4年生までは、遠い学校に行っていたが、これからは、おれと同じ小学校に通うことになった。こまったこと、つらいこと、いっぱいあったけれど、新ちゃんはずっと泣かなかった。

「こおりついた街で」

ヤーブ・テル・ハール//著 高柳 英子//訳 佑学社 949ハ

ナチスに包囲されたレニングラード。少年ボリスは食べ物を求めて、幼なじみの少女ナージャと、ロシア軍とドイツ軍がせめぎあう〈無人地帯〉に出かけた。そこで、敵のドイツ軍に捕まってしまった2人は、兵隊の思わぬ行動に驚く。なんと、白旗を持って、ロシア軍のところまで送り届けてくれたのだ…。

「おじいちゃんがおばけになったわけ」

キム・フォップス・オーカリン//文 エヴァ・エリクソン//絵

あすなる書房 Eエ

エリックの大好きなおじいちゃんが死んじゃった。「死んじゃったらどうなるの？」と、エリックはママに聞いてみます。すると「天国に行く。」と言う。パパに聞いてみると「土になる。」と言う。でもエリックはどちらもピンときません。

そんなふうに考えているとある晩、エリックの部屋にじいちゃんがいました。「この世に忘れ物がある人はおばけになる。」と、本に書いてある。エリックとじいじは二人で何を忘れているのか一生懸命考えます。

「3人のパパとぼくたちの夏」

井上 林子//著 宮尾 和孝//絵 講談社 913イ

おとうさんへ

もうイヤだ！ぼくは家出します。せんとくもゴミも皿洗いも、ぜんぶぼくだ。

おとうさんが家事をサボらないって言うまで、ぜったい家に帰りません！

置き手紙をのこして家を出ると、リボン姉妹のひなちゃんとさなちゃんに出会った。ふたりにはおかあさんがいなくて、おとうさんだけなんだって。ぼくとおんなじだ。でも、朝パパと夜パパのふたりいるという……。それって一体、どういうこと？

「ぼくたちのリアル」

戸森 しるこ//著 佐藤 真紀子//絵 講談社 913ト

幼なじみの秋山璃在^{リアル}は、サッカーが得意で足が速くて、勉強も5番以内に入る学年イチの人気者だ。服のセンスがよくて、顔もふつうにかっこよくて、性格は明るくてお調子者。リアルの周りには、いつもたくさんの仲間がいた。そんな華やかキャラのリアルだけど、じつは、ある悩みをかかえていた。4年前の夏のはじめ、あの事故があったからだ。ぼくは今まで、リアルとその話をする事はなかった。でも5年の新学期、リアルと同じクラスになってから……。

「約束の庭」

ゆうき えみ//作 佐藤 真紀子//絵 ポプラ社 913コ

転校生の咲は、学校帰りに図書館で本を読んでいた。誰かの視線を感じて顔をあげると、クラスメイトの丈君がいた。話しをしたことがないのに、持っていたアンモナイトの化石を見せてくれた。翌日、教室で会う丈君はまるで別人。本当に同一人物なのだろうか？家族の絆を描いたファンタジーです。

「義経千本桜」

橋本 治//文 岡田 嘉夫//絵 竹田 出雲他//原作 ポプラ社 912ヨシ

平家との戦いに勝利した源義経は兄・頼朝にその報告に向かうが、頼朝への謀反の疑いをかけられ、反逆者として追われる身となってしまう。追手から逃げる義経の前に、滅ぼしたはずの平家の武士が現れる。危機的状況の中、静御前が宝物・初音の鼓を打つと、不思議なことが起こる。歌舞伎の人気作を分かりやすい現代文に訳した本です。

「精霊の守り人」

上橋 菜穂子//著 二木 真希子//絵 偕成社 913ウ

バルサという女性が主人公のファンタジーなストーリーです。

TVアニメやドラマ化された「守り人」シリーズです。

上橋菜穂子さんの世界に親しんでみてはいかがでしょうか？

「災害救助犬レイラ」

井上 こみち//著 講談社 369イ

すぐれた嗅覚をいかし、生存者を捜し出す災害救助犬レイラ。

2011年3月11日に起きた東日本大震災で、いち早く被災地へ駆けつけ、目をそむけたくなるような光景の中、指導主である村田忍さんと捜索活動を行った壮絶な一週間をつづった一冊。

「わたしの愛犬ビンゴ」シートン動物記

アーネスト・T・シートン//文・絵 今泉 吉晴//訳・解説 童心社 480シト

11月はじめのある朝、開拓農場で事件がおきました。となりの開拓農場のイヌ「フランク」がコヨーテを追ってシートンの前に現れたのです。シートンはイヌを助けるためにライフルを手に外へ飛び出しましたが、シートンの目の前でコヨーテとフランクのすごい戦いが繰り広げられます。それを見たシートンはフランクにほれ込んでしまい、農場主にも譲ってもらえないかと頼みましたがだめでした。代わりにフランクの血を引く子犬を譲ってもらえることになりました。その子犬が「ビンゴ」でした。

「十五少年漂流記 21世紀版少年少女世界文学館 19」

ジュール・ベルヌ//著 講談社 908ニジSJ

15人の少年たちを乗せた船が無人島に漂着してしまった！国籍も歳もバラバラな彼らですが、生き抜くために知恵や勇気をふりしぼります。自然との闘い、まさにサバイバル物語です。

また、国籍の違いから起こる偏見や対立を乗り越えようとし、助け合いや友情が芽生えます。集団生活の中での一人一人の役割やリーダーシップ、チームワークなどテーマに選びやすい題材が盛りだくさんです。百年以上も前から読み継がれている名作です。

「ぐるぐるの図書室」

工藤 純子 [ほか] // 著 講談社 913グ

ある小学校の図書室の前には、茜色の不思議な貼り紙が掲示されます。その貼り紙は、図書室の本が必要な人にしか読むことができません。

今日の貼り紙には、「後戻りしたくてしょうがない人は、図書室に来てください。」と書かれていました。それを見た5年生の真下のぞみは、思い切って図書室の戸を開けました。すると、見なれない女の人立っていて、「探してみてください。今のあなたにぴったりな本があると思います。」と言いました。わたしにぴったりな本って？ のぞみは、本棚へと歩き出しました。そこには…。 本をめぐる5人の作家の5つの物語集です。

「ぼくとベルさん 友だちは発明王」

フィリップ・ロイ // 作 櫛田 理絵 // 訳 PHP研究所 933ロ

エディは10才。でも、どうしても、文字を読んだり書いたりすることができない。みんなはかんたんに、字をおぼえていくのに、どうして、おぼえることができないのだろう…。そんなある日、ぼくはベルさんに会った。ベルさんは電話を発明した有名な人だ。そんな偉大な人が、ぼくの話聞いてくれた。そして、ぼくたちは友だちになった！だれも信じないかもしれないけど、ぼくは、発明王と友だちなんだよ。そして…。

「スパイになりたいハリエットのいじめ解決法」

ルイーズ=フィッツヒュー // 作・絵 鴻巣 友季子 // 訳 講談社 933フ

さて、この物語の主人公ハリエットは小学校6年生の女の子です。(中に描いてある絵では男の子のように見えますが)彼女の趣味はスパイ。いろんなことを調べて、ノートブックに書いています。あるとき、そのノートを友達に読まれてしまいます。もちろん、友達のこともたくさん書いてあるのです。そこで、ハリエットはクラス全員から仲間はずれにされてしまいます。そして…。 ☆本当のこと、思いやり、友達、いじめ…たくさんつまっている名作です。この夏にぜひ読んでほしい！

「となりの火星」

工藤 純子//著 講談社 913ク

皆さん「火星」を見たことはありますか？夜空に赤々と燃えるように輝いていますが、実は赤く見えるのは酸化鉄のせい。しかも石ころだらけの砂漠で、平均気温はマイナス55度。マイナス130度になることもある惑星です。

この本の主人公は、和樹、美咲、かえで、湊の小学6年生と、中学1年生の聡の5人。それぞれ、自分は他の人とは違うと悩んでいます。劣等感といってもいいかもしれません。

でも、火星と同じく見た目と中身が違うのが人の個性。ありのままの自分を受け入れて成長していく姿が描かれています。

それをお互いに理解しあえる友達や、あたたかく見守ってくれる大人がいるって本当に大事ですね。是非、家族の方にも読んでいただきたい一冊です。

「見上げた空は青かった」

小手鞠 るい//作 講談社 913コ

太平洋戦争の最中、小学生の石崎風太は、両親と離れ地方の寺で疎開生活を送っていた。同じころ、ユダヤ人の少女ノエミとロザンナは、ナチス・ドイツの秘密国家警察から逃れるため、名前を変えドイツ人姉妹として隠れ家で暮らしていた。

遠く離れた地で暮らし、名前も知らない者同士の彼らが、互いの夢の中で出会い、勇気づけられ、生きる希望を取り戻していく。そして戦争が終わり…。

「あかりさん、どこへ行くの？」

近藤 尚子//著 江頭 路子//絵 フレーベル館 913コ

主人公のタケシは、もうすぐ6年生になるサッカー大好きな男の子。ある日、お母さんからおばあちゃんが『認知症』だと打ちあけられます。どう接していけばいいのだろう？ぼくにはなにができるんだろう？

迷いながらも、おばあちゃんに寄り添い、前に進む家族の物語。タケシの頼もしく成長していく姿に心が温かくなります。

「百まいのドレス」

エレナー・エスティス//作 ルイス・スロボトキン//絵 岩波書店 933エ

ワンダにはひとりも友だちがいませんでした。ひとりで学校へきて、ひとりで帰っていきます。まいにち着ている、青いワンピースは、いつも、しわだらけでした。

ワンダには友だちがいませんでしたが、話しかける女の子はいます。「あなたの戸だなの中に、何まいドレス持っているの？」ワンダは答えます。「百まい。」ワンダが持っている服といえば、あの青いワンピース、たった一まいにきまっています。ワンダはほんとうに、ドレスを持っている？そんなある日、学校で、デザイン・コンクールが行われました。そして…。

「さくら猫と生きる」－殺処分をなくすためにできること－

今西 乃子//著 浜田 一男//写真 645イ

飼い主のいない猫たちが、不妊・去勢手術を受けたあと耳にV字カットがされる。その形が桜の花びらのように見えることから、「さくら猫」と呼ばれる。猫たちのお世話係を

あきもとまさみ
する秋元理美は、朝八時過ぎから餌を与え、トイレを掃除する。この活動を仲間の人たちとボランティアではじめ、町内の飼い主のいない猫の数が減っていった。ところが、ふたたびこの町内に別の猫たちがやってくるようになりいついてしまった。「飼い主のいない猫」と「人」との「共生」ができるのか？

※生き物（動物）と人との関わりや距離間など、いろいろ考えさせられる本でした。

「明日のランチはきみと」

サラ・ウィークス//作 ギーター・ヴァラダラージャン//作
フレーベル館 933ウ

インドから転校してきたラビは、インドで優等生だったので、アメリカでも勉強ができると自信を持っていて何事にも積極的。ところが、数学の問題のとき方が違ったり、通じると思っていた英語が通じなかったり…、特別クラスに行くことになってしまった。一方、騒音に弱い障害を持っているジョーは消極的で、ランチの時間だけが楽しみ。そして、いつもいじめっ子にからかわれている。正反対な性格の二人だったが…。

「ソロモンの白いキツネ」

ジャッキー・モリス//著 千葉 茂樹//訳 あすなろ書房 933モ

アメリカ西海岸北部の都市シアトルに、北に生息しているはずのホッキョクギツネが姿をあらわします。学校に馴染めず、心を閉ざした12歳の少年ソロモン。大切な人を亡くし、悲しみを乗り越えられない父。そして、「ふるさと」アラスカ地方で暮らす祖父母。それぞれが悲しみを奥にかくしたまま日々を送っています。そんな中、突如あらわれた白キツネによって新たな関係を築いていく家族の物語です。

「ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集」

斉藤 倫//著 高野 文子//画 福音館書店 911サ

みんなもう知っているかもしれないけれど、おとなになるって、ほんとあつというまなんだ。そんなあつというまのなかでもきっと、いろんな気持ちが、心のなかに次々とあらわれて、きみをこんわくさせるだろう。びっくりさせたり、どんよりさせたりもするだろう。

でも大丈夫。いろんな気持ちは、いろんな言葉であらわせる。いろんな言葉は、いろんな詩のなかにかくされている。宝物のように。

この本は、そんなきみと、ぼく（さえない中年のおっさん）が、詩のやりとりを通して、いろんな気持ちと、いろんな言葉を見つけしていく物語。

詩って、むずかしくてよくわからない？そんなことないよ。詩は、やさしくて、自由なものだよ。こっちにきて、いっしょにあそぼうよ。

「スヌーパー君がいた40日 避難所の小学校で起こった小さな奇跡」

丹 由美子//著 山と溪谷社 645夕

東日本大震災、自宅で津波被害に遭いながら生き残った1匹の犬「スヌーパー」とその飼い主の実際にあったお話です。

震災が起こる10年前に、スヌーパーと飼い主の阿部さん夫妻は出会いました。自分の子どものように大切に育て、愛されて育ったスヌーパー。その飼い主との信頼関係が、大震災の時、避難先の小学校で小さな奇跡を起こします。

ペットを連れての避難の難しさ、日頃家族である動物たちとどのように接するべきか、いろいろなことを考えさせられる1冊です。

「ヒルベルという子がいた」

ペーター・ヘルトリング//作 上田 真而子//訳 偕成社 943ヘル

町はずれにある「ホーム」は、浮浪児や、親の手に負えなくなった子や、里子に出された先で〈いい子〉ではなかった子どもなどが、次の行く先が決まるまで、とりあえず入れられている施設だった。

ヒルベルは、まだ9歳なのに、すでにホームの古顔で、病気のためにいつも頭痛を訴えていて、何かと騒動を起こして周りを困らせるような子どもだった。けれど、ヒルベルにはヒルベルの考えがあり、時間をかけて根気よく、じっくり向き合えば、その意味がきちんとわかることも多かった…。

心に苦い思いを残す、「楽しかった」では決して終わらない物語。

「おいで、アラスカ！」

アンナ・ウォルツ//作 野坂 悦子//訳 フレーベル館 949ウ

スフェンは、てんかんの発作がいつ起こるか分からないため、介助犬と一緒に家で生活している男の子。でも、病気のことは、学校の友達には知られたくなかった。ところが、ある日学校で発作が起きて…。

介助犬のアラスカを通して、少年と少女の心の通じ方を描く作品です。介助犬の役割も知ることができます。

「しあわせなハリネズミ」

藤野 恵美//作 小沢 さかえ//絵 講談社 913フ

ひとりが好きな、ともだちのいないハリネズミ。思ったことをそのまま口に出してしまう性格は、背中の中のハリのように、森のどうぶつのココロをきずつけてしまいます。ともだちがいないことを指摘されても、「ちっとも、さみしくなんかない」と大好きなさんぼを続けます。

そんなある日、最近森に引っ越してきたという1匹のもぐらに出会います。カレとの会いで、ハリネズミは…。

— “ともだち” はいろんなキモチを教えてくれる。

「青いスタートライン」

高田 由紀子//作 ふすい//絵 ポプラ社 913タ

夏休みの間、新潟県佐渡島に住む祖母の家で暮らすことになった小学5年生の颯太。ある日、祖母の家で観た動画がきっかけで、25メートルしか泳げない颯太が1キロの遠泳大会に挑戦する。

途中であきらめてしまいそうになる颯太だったが、祖母の元教え子である17歳の青年、夏生が支えに。人との出会いを通して成長してゆく姿が描かれている物語。

「おいしい1時間（タイムストーリー）」

日本児童文学者協会//編 中島 梨絵//絵 偕成社 913オイ

この本には、「1時間」をめぐる5つのストーリーが入っています。「時間」の大切さや、「時間」にまつわる奇跡など、短いストーリーの中に込められた様々な出来事に吸い込まれてしまうことでしょう。

みなさんは、時間を意識したことがありますか？物語の主人公になって、この世界を楽しみましょう。

「わたしの心のなか」

シャロン・M.ドレイパー//作 横山 和江//訳 すずき出版 933ドレ

メロディはもうすぐ11歳になる小学5年生。生まれながらの脳性まひのせいで、言葉を発することも歩くことも、自分でご飯を食べることもできません。記憶したり、言葉を理解したり、考えたりすることはできますが、話すことができないため、脳の発達にも障害があると診断されてしまいます。

しかし、両親や、小さな頃からメロディを預かってくれる隣人のヴァイオレットは、メロディの知性に気づいていたのです。やがて、小学校の移動支援スタッフのキャサリンとの出会いや、メロディの言葉を声として出してくれる機械「メディ・トーカー」を手にする事で、周囲に知性を証明することができるようになり、メロディの世界は大きく変わっていくのです。

「アドリブ」

佐藤 まどか//著 あすなろ書房 913サ

イタリアの小さな町に住むユージは、母に連れられて行ったコンサートで運命の楽器と出会う。天使の声のような美しい音を奏でるフルート。その音色に魅せられたユージは、フルートを吹いてみたいと思う。それまで楽器にさわったこともなかった少年が、国立音楽院の入学試験に挑戦する。そして…。

「夏休みに、ぼくが図書館でみつけたもの」

濱野 京子//作 森川 泉//絵 あかね書房 913ハ

図書館に毎日通い、本の紹介を友達にするほど、本が大好きな小学5年生の達輝君。夏休みに入る前に、今まで話したことがなかった同級生と、ちょっとしたきっかけで図書館で知り合いになります。その友達をとおして、この夏休みで達輝君が、少し大人に近付くような経験をします。相手のことを考えること。自分のことを考えること。そして、この本には、ブックトーク、リクエストカード、個人情報等々、図書館用語が各場面にたくさん出てきますので、図書館の仕組みが分かる1冊となっています。ぜひお読みいただきたい1冊です。

「見えない道のむこうへ」

クヴィント・ブーフホルツ//作 平野 卿子//訳 講談社 943ブ

バイオリンを弾く島の少年と放浪画家「マックス」が出会い、物語は静かに進んでゆく。マックスは瞬間を集める人と称し、「どの絵にも一本の道が通じている」と言い、「カナダには雪象がいる」とか、「空飛ぶサーカスワゴン」とか謎めいた話をする。ある日、彼の絵を見たとき、絵から音楽が聞えたように感じ、バイオリンを弾いてみると、楽しいメロディーをつむぎだしました。少年とマックスの想いが、ファンタジー的な絵とともに心に残ることでしょう。読んだ後に、なぜ？本の題名が「見えない道のむこうへ」となっているのか考えてみてください。きっとより温かく感じられることでしょう。

「夏の猫」

北森 ちえ//著 森川 泉//装画・さし絵 国土社 913キ

小学校5年生の海と同年齢のいとこ舟は、呉にある祖父母の家で夏休みの間「合宿」をすることになった。合宿の目的は2つあった。1つは、体の弱い舟をたくましくする。2つ目は「なっちゃん」に2人の宿題を見てもらう。勉強のできる舟と勉強することで、海が刺激を受けるのではないかと親たちがもくろんだらしい。なっちゃんは、海のお母さんと舟のお父さんの歳の離れた妹で、現在大学受験を目指す浪人生。この夏、3人にどんなことが起こるのか、どんな成長をするのかドキドキです。

「サステナブル・ビーチ」

小出鞠るい//著 さ・え・ら書房 913コ

小学校6年生の七海が環境汚染(海洋汚染)について調べ、考え、アクションを起こすまでの物語。環境を汚染し、自然を破壊しているのは人間であって、その人間ひとりの行動が多くの人を動かし、地球を救うことに繋がることを教えてくれます。社会問題も織り込まれつつ、今、わたしたちに出来ることは何かを考えさせられます。

「とおい夏の日～四万十川ものがたり～」

笹山 久三//著 河出書房新社 913サ

ボクはクロ。生まれただの子猫です。ボクを大切に守ってくれたあつよし君のお話を紹介します。高知県の四万十川でうなぎとりをしながら細々と暮らす家族。その中であつよし君は貧しさゆえの苦しみや悲しみを幼い心で学んでいきます。両親、兄妹、そして学校の友達とのからみあういくつもの感情と、ボクたち猫チームへの限りない愛情、そこからあつよし君が自ら考え行動する原動力をつちかかっていく様は、きっと読んでくれたキミたちの「今」を励ましてくれるでしょう。泣かずに読めるかニヤ?

「チョコレートのおみやげ」

岡田 淳 // 文 植田 真 // 絵 BL 出版 913 才

時間がとけていくみたい。おばさんは、チョコレートを食べってからそう言いました。そして、ゆきちゃんにお話しをはじめます。風船売りの男とニワトリの物語です。

ある時、風船売りの男が帰ってきません。いつもそばにいるニワトリは気になり出しました。次はどうなっていくの？そしてゆきちゃんもお話を作り始めます。

ニワトリにチョコレートを食べさせるのです。すると...

とてもやさしくて、あまい物語です。

「みどりのゆび」

モーリス・ドリュオン // 作 安東 次男 // 訳 岩波書店 953 ド

少年チトは、触れるだけで種を芽吹かせ、花を咲かすことができる不思議な力「みどりのゆび」を持っていました。チトは悲しみや苦しみを抱える人々に、草木を育てる楽しみや喜びそして感動を与えます。一方、物ごとの本当の姿を見抜く目を持っているチトは、大人たちからは心配される存在でもありました。そんなある日、チトは大好きなお父さんが平和を壊す武器を作っていることに気づいてしまいます…。複雑な心を抱いたチトはどうしたと思いますか？

「ひとりでがんばらない!

子どもと考える福祉のはなし」

藤田 孝典 // 著 北村 人 // 絵 クレヨンハウス 369 フ

「福祉」って何？自分には関係ない？「福祉」とは、特別なひとを助けることではなく、自分や家族を幸せにしくみです。みなさんが、いま、何か生きづらさを感じているとしたら、ぜひ知ってほしい。社会福祉士としてかつやくしている著者が、わかりやすく語りかける「福祉」のお話です。

「雨ふる本屋」

日向 理恵子 // 作 吉田 尚令 // 絵 童心社 913ヒ

お母さんが妹につきっきりでさびしさを抱えているルウ子は、ある雨の日、図書館の中で「おしまい」を書いてもらえず、忘れられてしまった物語に雨をふりかけて完成させる「雨ふる本屋」に迷い込んでしまい…

「表参道高校合唱部!1 涙の数だけ強くなれるよ」

櫻井 剛 // 脚本 桑畑 絹子 // 小説 学研プラス 913クワ

合唱が大好きな真琴。親の不仲が原因で香川県小豆島から表参道高校に転校してきた。名門といわれた表参道高校合唱部だったが今は部員3人の廃部寸前という部になっていた。

合唱部は父と母が出会った思い出の場所。真琴は部を存続させようとするが部員3人、顧問の先生共にやる気がない。そこで真琴は合唱の素晴らしさを伝え部員募集をすることにした。

やる気がなかった3人、顧問の先生も真琴の姿を見て少しずつやる気を取り戻す。

さて、表参道合唱部は真琴たちの力によって昔のような名門合唱部に生まれ変わる事ができるでしょうか。

つらいこと、悔しいことを乗り越えて、明るく前向きな真琴の姿が印象的なお話しです。

「夜明けをつれてくる犬」

吉田 桃子 // 著 Naffy // 装画 講談社 913ヨ

主人公 小学5年生の美咲は、人前でうまく話せない。友達もいない。飼犬の「レオン」はそんな美咲の心によりそってくれる大切な存在だったが、10ヶ月前に死んでしまった。ある日美咲は通学路の途中にある「はしもと生花店」でレオンにそっくりな「ピリー」に出会う。『レオンに守られているという安心感でいっぱいだった』美咲がラストに向け『わたしが勇気を出す番だ』と守られる側から守る側へと一歩踏み出していく。

美咲を応援したくなる一冊です。